

# 議席の値打ち届けた民商訪問。「1千万対話」へ勇躍して党語る

## 清水ただし衆院議員の発言から

最近の会議での清水ただし衆院議員の発言(大要)を紹介します。

私は通常国会が終わった6月以降、国会報告を兼ねて、中小業者の現状と要望を聞き取ろうと、秘書さんらとともに民商訪問に力を注いできました。今日まで、近畿2府4県の県連及び、58の単位民商を訪問することができました。コロナの影響は、業種や地域によって異なり、実態を把握することが極めて重要だと考えたからです。

「こんなに遠い民商まで来てくれて感謝している」「清水さんらの国会質問がそれまで厳しかった持続化給付金の申請を突破する力になりました」と歓迎されました。

すべての民商で、業者の営業と地域経済を守るために昼夜を分かたず奮闘する役員や事務局の方々の姿に感動しました。こうした、たたかいが国会論戦をより具体的に実践的なものにするうえで大きな力となりました。

神戸北民商を訪れた際には、貿易業の方から「国会質問など見たことがなかった。どうせ野党は揚げ足取りしかしないとと思っていたから。ところが、清水さんの質問をネットを見て、私たちのために声をあげてくれる国会議員がいたのだと驚き、感動しました」と語ってくれました。同時に、その方は、「質問時間が短いのは議席の数と関係があるのですか」とも言われました。「その通りです。定数28の近畿ブロックで2人しかいないのは少なすぎるのです。議席を伸ばしていただければ、さらにみなさんの願いを届けることができます」と応じました。

神戸市や京都市では業者後援会が私を招いてつどいも開催してくれました。神戸市のつどいでは、女性経営者が、入党の呼びかけに「国民の苦難の軽減という立党の精神に鳥肌が立ちました。できることは限られているけど私もがんばりたい」と決意してくれました。

前回総選挙の総括と教訓に立ち返ることが重要性です。3年前、比例近畿ブロックは4議席から2議席に後退、私は落選しました。自らの国会活動の実績を有権者や支持者に浸透させることに成功せず、とりわけ近畿選出の議員として党の議席の役割を届ける日常活動が不十分だったことを痛感しました。その教訓と反省を生かし、近畿ブロック事務所や各府県委員会と相談し、日本共産党がコロナ対策で果たしている役割について積極的に届ける活動を重視してきました。



大阪・住之江民商で(後列左端は西田さえ子比例候補)

コロナの中で一人の業者もつぶさないと頑張る民商の懸命の活動と、国会議員団の質問がガッチリとかみ合い、持続化給付金や家賃支援給付金など、業者支援の制度を改善させ、多くの受給につながったことを実感しています。「1千万対話」をやりきるためには、後援会や支持者の方から、さらに対話を広げていただくことが欠かせません。躊躇(ちゅうちょ)せず、確信を持って日本共産党への支持を働きかけていただく上でも、こうした活動は重要だったと思います。

未来社会論を語るうえで紹介したいことがあります。大阪市内で、まちづくりのNPO団体と懇談する機会がありました。その中には維新支持者や「都構想」賛成派の方もおられたのですが、口をそろえて「資本主義は限界だ」と述べられたことに驚きました。加えて、共産党はもっと社会主義社会の展望を語ってほしいとも要望されました。わが党は、野党連合政権にむけた政権協議の中に、政策の違いは持ち込まないことにしていますが、だからと言って、未来社会論を語るのに抑制的になる必要はないと、あらためて気づかされたのです。

コロナの感染拡大により格差の増大、社会保障体制の脆弱性や気候変動の危機に直面する中で、少なくない国民が資本主義を乗り越える社会の受け皿を渴望していることがうかがえました。比例代表で躍進するために、日本共産党が生産手段の社会化、人間の全面的な発達を保障する社会主義・共産主義を展望していることについて語る活動にも、一層力を注ぐ決意です。

こくた恵二さん、宮本たけしさん、11年ぶりの近畿の女性衆院議員をめざすこむら潤さんとそろって、4議席回復を実現するために新鮮な気持ちでがんばります。

### 20近畿ブロック事務所ニュース

Tel06(6975)9111 Fax06(6975)9115

【府県・地区・地方議員御中・部内資料】

No. 69(2020.12.16)